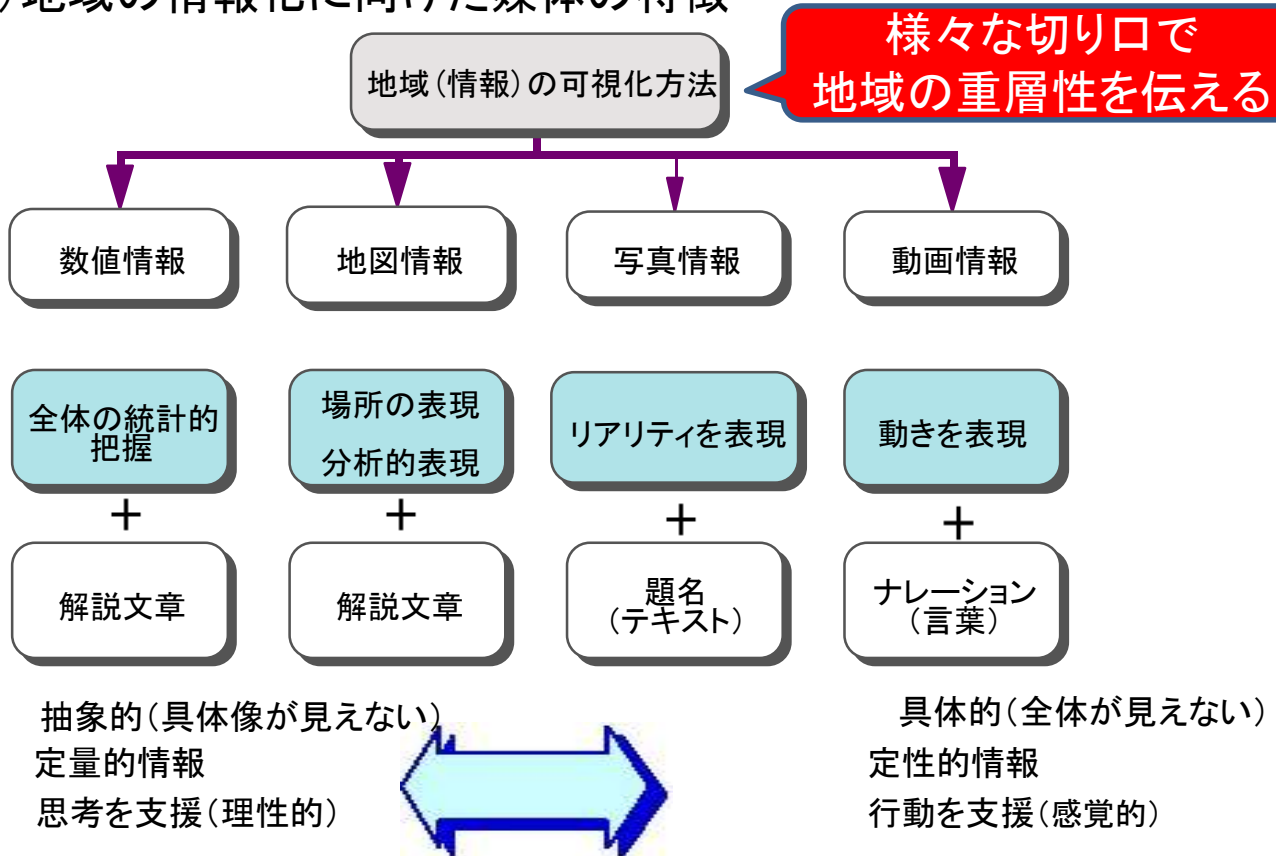


1 地域の可視化に向けたドローンの利活用

1) 地域の情報化に向けた媒体の特徴



2) ドローン情報が必要とされる範囲

- ①必要な時に必要な場所の情報を安価に入手し、すぐに活用
⇒これまで専門家に依頼するため、必要な時に使えなかった
- ②動画を通して地域の良さを伝える
⇒「景観」や「全体像」や「動き」を伝える
- ③上空からの静止画を利用したリアリティを伝える
⇒斜め写真や、合成した垂直写真(オルソ画像)
⇒さらに3次元立体映像の作成

地図情報の利活用支援

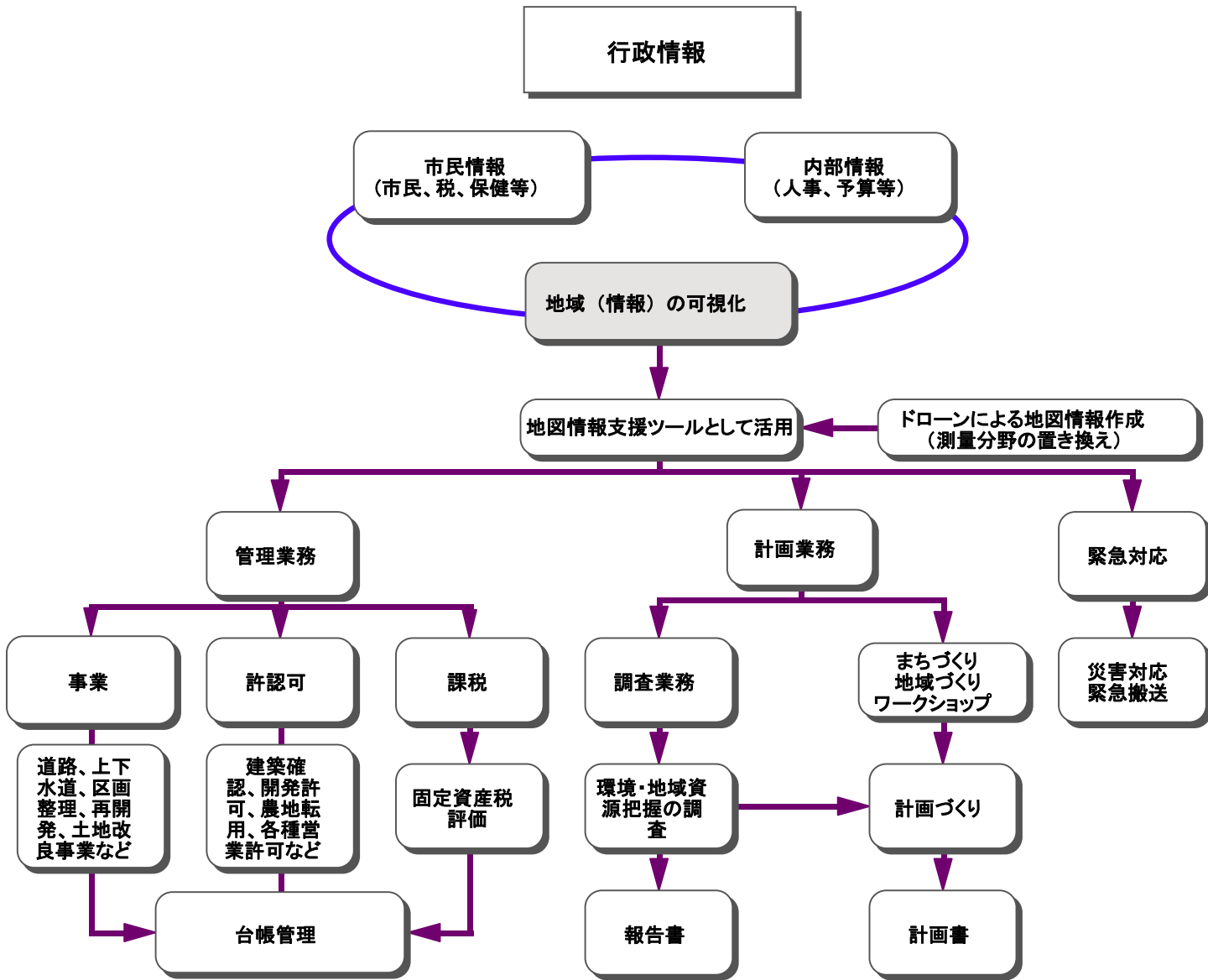
プロモーション
動画

緊急時の
記録・活用

詳細な
(施設)点検

現地
検査・確認

3) 自治体業務支援に向けたドローン活用範囲



tsukuba2

Report: March 29, 2017



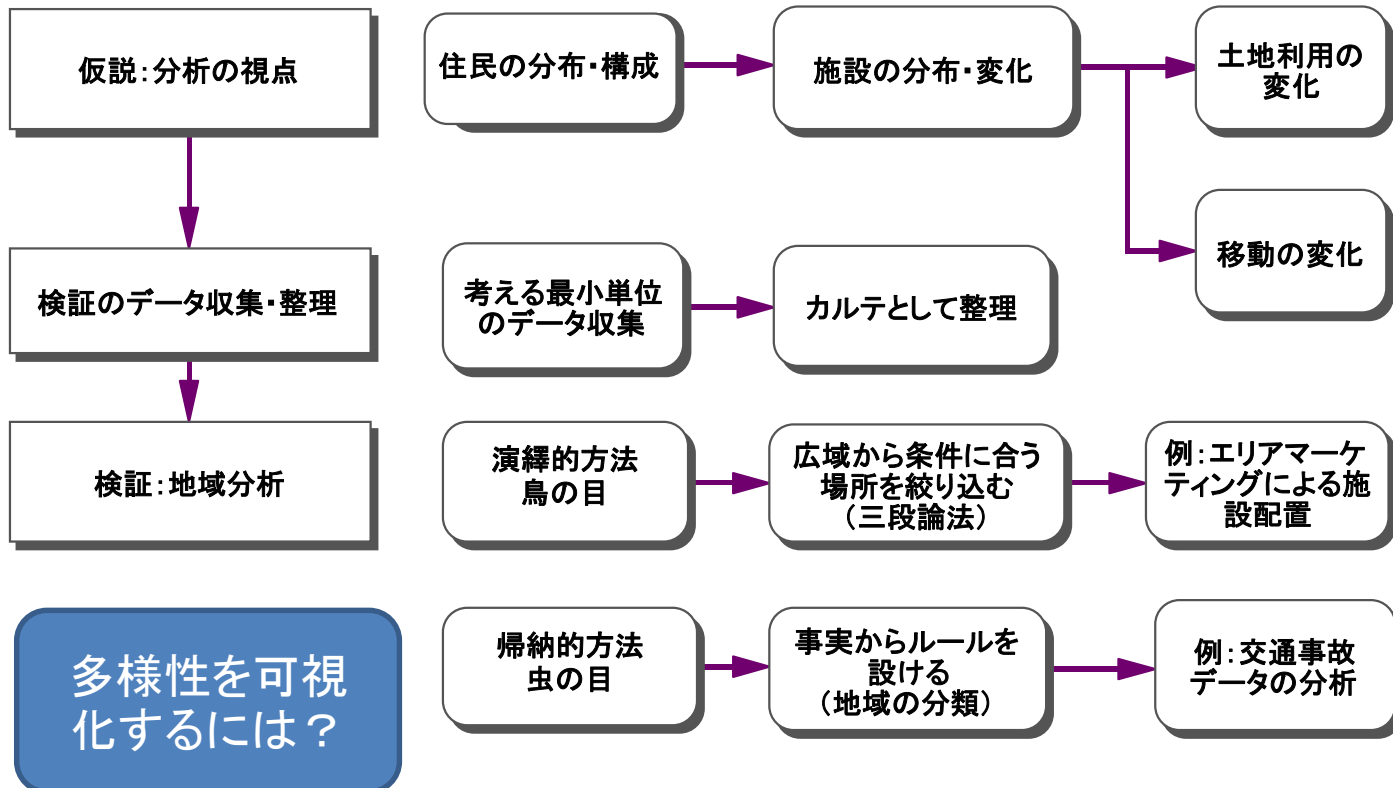
2 地図情報を利用した地域の分析

1) 地域はPDCAではなくウーダ(OODA)サイクル

- 2003年イラク戦争で米軍が本格採用
- 地域は計画ありきではなく、現場の観察中心であるべき
- 地域を考える⇒地域を知る⇒地域を分析する⇒方向付け(ビジョン)
- 医療行為と類似



2) 方向づけは、仮説とその検証の繰り返し

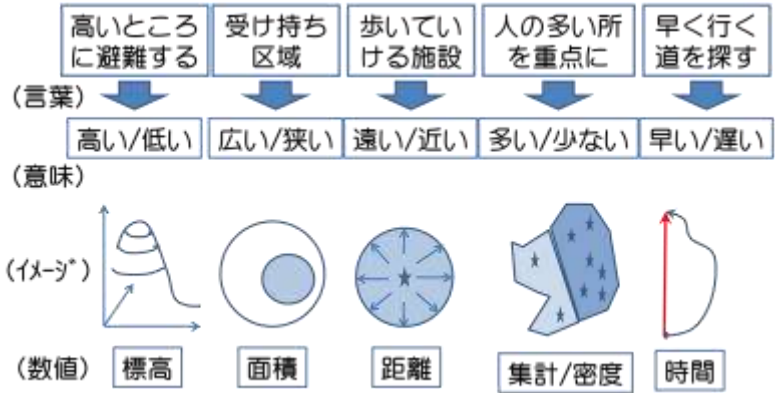


3) 仮説(分析の視点)の考え方

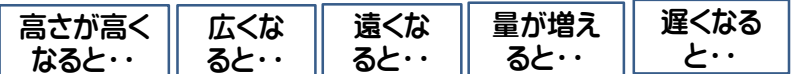
空間的思考: 空間認知、空間的推論、知の発見



身近な言葉から空間的な意味を考える



どのように変化するかを考える



数値を用いて検討

いろいろな角度から話し合いにより、仮説を深める(どのような影響が生じるか)

基本モデル

条件に基づき分類し、重ね合わせ

例

最も条件の合う場所
(工場・住宅・商店)
の立地分析

利用者が移動することを前提

例

利用者の多い場所
(駅前やロードサイド)
立地分析

施設が移動することを前提

例

利用者を巡回する
(コミュニティバス)
ルート検討

